

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和6年 学校教育だより

December **12** 第363号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線623)



かごまで届け！

写真提供／水谷東小学校

「人間」

関沢小学校 六年

須藤 慧

人間はみんなちがう

世の中には顔 声 性格

すべて同じ人なんていない

自分には自分だけの

「個性」がある

だからみんなも

気づいてほしい

自分は一人しかない

そして

その存在の「大切さ」を

心とからだの学習 二

る包括的性教育の実践」 ビーイングのために～

指導者 富士見特別支援学校 教諭 飯村 恵

「性教育」というと「一次性教育や出産など」「狭義の性教育」のイメージが強く、扱うのが難しいという印象がある。本校で扱う包括的性教育の考え方としては平成三十年に改訂版が発行された『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の中で示されている八つのキーコンセプトの内容を取り入れている。(下表)

中学部と高等部は教育課程に位置付け、保健体育の中で学期に二～三回程度授業を行っている。小学部は取り扱う内容を整理し、生活単元学習や日常生活の指導の中で実践している。

包括的性教育

はじめに

国の第四期教育振興基本計画において、子どもたちがウェルビーイングを実現していくための重要性について言及している。「性」についての課題は、教育の目的である「人格の完成」に、極めて重要な意義を有しているとともに、子どもたちにとって「よりよく生きる」ために必要な学習であり、「性」に関する権利は、いかなる障がい種、発達段階でも守られるべきものと考えられる。そのため、特別支援教育の中でも「性教育」を段階的に実施し、子どもたちに正しい知識や態度を身に付けることができるようにし、「性」に関する豊かな心やからだを育てる必要がある。「性教育」は、幸せに生きていくウェルビーイング実現のための大切な学習である。

8つのキーコンセプト

- 1 人間関係
- 2 価値観、人権、文化、セクシュアリティ
- 3 ジェンダーの理解
- 4 暴力と安全確保
- 5 健康とウェルビーイングのためのスキル
- 6 人間のからだと発達
- 7 セクシュアリティと性的行動
- 8 性と生殖に関する健康

実践内容

① からだの清潔「手洗いをしよう」(小学部)



本校に代々引き継がれている手洗い歌(森のくまさんのメロディ)を使って、洗い方の学習を行った。蛍光剤を含んだローションを塗ってから手を洗い、汚れが落ちたかブラックライトで確認した。「あれ?落ちてない。」と自分で気付く児童もいた。再度洗うとほとんどの児童がきれいに汚れを落とすことができた。

② 人とかかわり「ふれあいサイコロ」(小学部)

「あくしゅ」「ハイタッチ」「あたまをなでる」などのイラストや言葉をサイコロに貼り、出た指示に対して、「おねがい」「いいよ」または「いやだよ」の選択行動を行った。「いいよ」ではハイタッチをしたり、二人一緒に写真を撮ったりした。一方、「いや」の場面では、今回は「いや」と言われても、次回は違うかもしれないこと、相手が嫌いというわけではないこと、どんな返答も尊重されることを学んだ。



諏訪小学校 3年

山川 永真

「台風の日をがんばった運動会」

10月19日に運動会をしました。ぼくは、台風の日とエイサーに出ました。台風の日練習の時には棒を跳ぶのが苦手でよく引っかかってしまいました。でも、練習を積んだ結果、跳ぶのが上手になりました。本番では順位は4位でした。でも、みんなで協力できて楽しかったです。全校では、ぼくの黄色組は3位でした。悔しかったけど、がんばって全力を出し切った運動会だったので楽しかったです。この経験を生かして来年の運動会もがんばりたいと思います。



＝ 特別支援学校

わかる授業

「特別支援教育における子どもたちのウェル

③ 人とのかわり「パーソナルスペース」(中学部)

はじめにパーソナルスペースとは、「人と安心して過ごせる距離」で、相手によって距離が変わり、同じ相手でも気分や体調、場面によって変わること学習した。次に自分のパーソナルスペースを「家族、友達や先生、知らない人」の三つの関係について体験を通して計測し、模造紙に貼って長さの違いを確認した。時と場所と相手の気持ちを考えたかわりは大人でも難しいことだが、積み重ねの学習で身に付けていく必要がある。



④ 性に関する自己決定 性交 妊娠 出産 避妊「いのちの授業」(高等部)※昨年度の実践

本市の全ての学校で行っている助産師による「いのちの授業」では、高等部の生徒が

男女一緒に学習を行った。親密な付き合いについて考え、「安心・安全・対等・同意」というキーワードで性についてのかかわりを学習した。避妊については、病院に行かず入手できる方法としてコンドームを紹介し、装着練習を行った。別グループの生徒は、育児休業中の教師に赤ちゃんの様子を見せてもらったり、妊婦ジャケットの装着や赤ちゃん人形を使ってお世話体験を行ったりした。両グループとも生徒の言葉や表情から、多くのことを感じ取っていることが伝わってきた。また、今年度の「いのちの授業」には、中学部もグループに分かれて参加し、助産師からは思春期の心やからだについて学ぶことができた。



おわりに

子どもたちが「自分のからだ」「自分の気持ち」「人とのかわり」についての学習を通して「性について自己決定する力」を育むことができる。また、この実践は通常の学級でも取り入れることができ、障がいのある無にかかわらずすべての子どもたちのウェルビーイングの実現への第一歩となった。この歩みの先には子どもたちの最高の笑顔と幸せが広がっていることを確信している。

指導・講評

富士見特別支援学校校長

齊藤 七実

本校で取り組んでいる包括的性教育は、子どもたち一人一人が「よりよく生きていく」ために必要な学習であると捉えています。特別支援教育の中でも性に関する指導を段階的に実施することは、これからの子どもたちが幸せに生きていくために不可欠な、そして、将来につながる大切な学びであると信じ、今後も本研究を進めてまいります。

特別支援教育

みとせ学級と地域のつながり

西中学校 教諭 浅沼 明子

本学級では、人とかわかることに自信をもってたくましく生活できる生徒に成長してほしいという願いがあり、学習の中で地域の人々とのかわりの場面を設定し、コミュニケーションや社会性を学び、自己肯定感を高めていけるような教育活動をめざしている。

「販売を通して保護者とのかわりをもつ」①金銭授受

や商品説明②コミュニケーション③自己肯定感の高揚。

「交流会を通じて」①異年齢との活動による心の育成②頼られる存在として自己肯定感の育成③社会性の育成④地域の一員として社会的自立をめざしている。

成果として、即時評価、称賛されることで、自分のことを認められた感覚やコミュニケーションをとる喜

今後も地域の方々との交流を大切にしながら、生徒一人一人のウェルビーイングを実現する特別支援教育の充実を図っていく。

将来の選択肢

針ヶ谷小学校 保護者 鈴木 康之

私は三人の子の父として、小・中学校にかかわって十年目となりました。学校とは、子どもたちの成長や未来を形づくる大切な場所であり、子どもたち、先生、保護者、地域の方など幅広い世代の方がかわり、双方が成長し合う、他にはない貴重な環境なんだということを実感しています。

行事やPTA活動で子どもたちとかわる機会が増え、学校や放課後、地域での過ごし方を見ていると、

彼らは本当に毎日忙しく過ごしているように感じました。朝、決まった時間に起きて登校し、時間割に沿って学校での時間を過ごし、放課後も宿題や習い事を終え就寝する。振り返ると、子ども自身が好きなことや将来の夢について考える時間は本当に少なく、親としてもつくってあげられていないと思います。

昨年、「針ヶ谷小学校四十周年記念事業」の中で六年生主導での動画制作に携わった際、初対面の私に對



し、子どもたちは自分たちの思いや伝えたいことをいろいろと提案してくれ、音楽選りから編集の方法までたくさんの質問と興味を示してくれました。その結果、針ヶ谷小学校の歴史から現在の活動までを紹介する素敵な動画を完成させ、披露することができました。動画が完成した際には、

「将来、動画制作にかかわる仕事ができたら楽しそうですね。」

と、感想をくれました。

これからも、学校や地域の中で、子どもたちが将来の選択肢の一つでも多くつくれるような活動をみなさんで協力して行えたら、うれしく思います。



学び好きな子どもの育成

「総合的な学習の時間「水谷博士タイム」」

水谷小学校

これからの社会を自由に生きるためには「学び続ける力」が必要であると本校では考えています。そこで、総合的な学習の時間「水谷博士タイム」を中心として、「学び好き」な児童を育てようと主体的に学べる場の設定を行っています。児童は様々な問題を解決する為に設定された九つのプロジェクトから興味をもつものを選び、学年に関係なく仲間同士で協働的にプロジェクト

の達成を目指して探究する活動をしています。活動時にはゲストティーチャーをお呼びしたり、校外へ出かけたりとインターネットで調べただけでは分らない、感じられないような様々な体験を通して、児童は自分の感性を働かせて学んでいます。また、学期毎に二日中総合的な学習の時間に取り組む「水谷博士DAY」を設定し、普段できないようなことができよう探究の時間を確保してい



ます。今後も児童の学びを支えていきたいと思っています。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

挑戦の数だけ成長

東中学校 保護者 高橋 暢子

私には三人の息子がいます。みんな学校での出来事を進んで話しはしませんが、日頃の表情から仲間と共に充実した時間を過ごしていることが見て受け取れます。

そんな生活の中でも、自分の目標に挑戦し、思うような結果にならなかった時、再チャレンジする一歩がどうして

も踏み出せない瞬間があります。そんな折、我が家では「失敗は成功のもと」と伝える背中を押しているのですが、私がかけた言葉が思春期の彼らに、ほんの少しでも響いたならよしと思っています。状況によって様々ですが、親から言われるよりも学校でかわっていたいだいて先生方

からの一言の方が彼らの中に、すっと入ってくるようです。

これから人生の分岐点に入り、それぞれ壁を乗り越えていかなければならない時期になりました。家族はもちろん、お世話になっている学校の先生方をはじめ、たくさんの方々からお力をお借りして、挑戦を続けることの大切さ、また、失敗をしても立ち上がり、前に

進もうとする強さを身に付けて、今以上に成長してほしいと願っています。



教育課題特集

夢ときぼうを

若手教員育成指導員として

清水 洋志

若手教員育成指導員制度とは、富士見市教育委員会の独自事業として、十年ほど前から始められました。この制度の内容は、経験年数の少ない先生や臨時採用の先生の授業力と指導力の向上を目的にしています。今は、富士見市内のすべての小・中・特別支援学校に派遣されています。

教室に行くと「おはようございます。」という子どもたちの明るく元気な声が聞こえてきます。授業中は、自分の考えを生き生きと発表する多くの子どもたちがいます。休み時間は、友だちと仲よく楽しく遊ぶ子がたくさんいます。

私は、そんな先生たちと子どもたちと共に毎日を過ごしながら「夢と希望をもって、大きくはばたこう。」と、心の中でエールを送り続けています。そして、先生たちや子どもたちから、たくさんの元気と力をもらいながら、今日もがんばっています。



夢ときぼうをはぐくむ

本郷中学校

本校では、学校応援団の方々に様々な場面でご支援をいただいております。具体的には、①職員玄関の生け花②正門の掲示板③校内の廊下の季節ごとの装飾④富士見市内の鳥や生き物の写真の掲示⑤学校ファームの整備⑥植栽の整備⑦七夕の笹・短冊の提供⑧働く人に学ぶ会の講師の招聘⑨アルミ缶回収⑩お茶やお離子体験等多岐に渡っています。

一学期に入ってから、二年

生の総合的な学習の時間に学校応援団の方に来ていただき、富士見市の歴史や文化、生活について教えていただきました。また、芸術文化部の部活動では、手作りランタンづくりのご指導をいただきました。膨らませた水風船に溶かしたボンド

ですが、丁寧に教えていただき完成したランタンを見て満足そうな様子でした。生徒の体験活動を中心としたキャリア教育に大きく役立っており、地域の皆様に支えられて生活していることを実感できています。



を塗って和紙や押し花を貼りました。水風船が割れたりして、生徒たちは慣れない作業に悪戦苦闘しています。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに

育てよう 人間尊重の心 広げよう

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人一人の子どもたちに確かな学力を身に付けさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人一人の子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますのでご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

一 人のいのちを大切にしよう

いのちある動物、植物をいたわりましょう

二 健康を大切にしよう
正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう

三 おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことが聞こえる温かい家庭をつくりましょう

四 ありがとう、ごくろうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう

五 家族の仕事を分担し
家族の一員としての役割をはたしましょう

六 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあっていきましょう

七 やさしさ いたわりの心を大切にしよう
おとしよりの方々に学びましょう

八 どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にすることを育てましょう

九 正しくやさしいことばでつづかれた
明るい家庭をつくりましょう

十 正しいことをつらぬく強い心で
勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

【小学生の部】

きみのこせい 世界に一つ たからもの

(南畑小学校 五年 神宮 香奈)

一声で きつと未来が 変わるはず

(つるせ台小学校 五年 榎原 沙紀)

つかうなら わるくちよりも ほめことば

(ふじみ野小学校 五年 岩下 花)

【中学生の部】

それぞれの 光る個性 大切に

(東中学校 一年 穴戸 信仁)

入間郡市同和对策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募作品より

【小学生の部】

友達を 大切にしよう いつまでも

(諏訪小学校 五年 村山 嘉穂)

その個性 自信を持って 咲かせよう

(つるせ台小学校 五年 小林 由芽)

【中学生の部】

「大丈夫？」 相手を思う その気持ち

(東中学校 一年 高倉 香純)

ありがとう うれしい言葉 あたたかい

(水谷中学校 一年 萩元 心咲)

〔富士見市人権教育推進協議会 応募作品より〕

人間尊重・私の主張

人権問題について

世界が平和であるために

本郷中学校 三年 鈴木 日奈子

二〇二四年一月一日十六時十〇分、きつとどこの家も一家団欒とした中、あの地震は起こった。そう、能登半島地震だ。私は、新年から流れ続ける地震速報の中で見たあの記事を今でも覚えている。

当時、地震が起こったとき、石川にはたくさんさんの技能実習生がいたそうだ。言葉も文化も違う彼らは十分に支援を受け取るのが難しい。例えば、避難所で提供された食事が宗教上食べることができない人や、そもそも避難所が開かれたことを知らなかった人もいて、生活する上で必要な情報が外国人になかなか伝わらない。また、外国人は「ストック情報」も不足している。ストック情報とはこれまでに蓄積された知識や経験のこと。「沿岸の近くで地震が起こると津波が起こる」や「大地震が起こると津波が起こる」など地震国である日本に住む私たちからしたら、当たりまえかもしれないが、地震の経験がほとんどない外国人からすると困惑してしまったそう。異国の地で被災した彼らに私たちは何ができるのか考えてみた。考えた結果、やっぱりコミ

ュニケーションを日頃からとっておくことが大切だと思った。災害時に少しでも気にかけて「一緒に逃げよう」と声をかけて少しでも安心させてあげたい。そう考えると、いつもは苦に思う英語の勉強が少し楽しくなった。

私は大きな災害を体験したことはまだない。しかし、いつ起こるか分からないのが災害だ。その「いつか」に向けてもっと英語を勉強して、たくさん外国人を安心させたい。もし日本に旅行中大きな災害が起こったら、いい思い出にはならないかもしれないけど、人種関係なく助け合い、少しでも日本はいい国だと思ってくれたらうれしい。

私は、あの記事を見て一つの夢ができた。それは、大勢の人を助けたり、安心させてりできる大人になることだ。具体的な職業は分からないし抽象的だ。だけど、未熟な私だからこそ人の苦しみを分かち合い、寄りそえると思う。いつか大勢の人を助け、安心させるために私は今日も生きている。最後に全ての人に伝えたい言葉がある。

「Peace begins with a smile」

(平和は微笑みから始まります)

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけません。」と注意します。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とうったえ続けます。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 一 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよう。」と声をかけていきます。
 - 一 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切に、いじめを撲滅する努力をします。

教育委員会だより

令和3年4月以降に高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ
〈教育資金利子補給制度のご案内〉

高校・大学等に修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育ローン（教育一般貸付）を受けた場合に、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方またはその保護者であること
 - ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
 - ③市税を滞納していないこと
 - ④日本政策金融公庫から教育資金の融資を受けていること
- ※利子補給制度の対象となる融資は、修学する学校ごとに1回のみです。

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間。

3 利子補給金額

借入れに係る利子の年額(上限1万7千円)を助成します。
※利子の年額は、年度単位で計算します。

4 申請方法等

申請方法・申請時期等の詳細は、富士見市ホームページをご確認ください。



【利子補給に関する問合せ先】

富士見市教育委員会 教育政策課(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線612)

【教育一般貸付に関する申込み・問合せ先】

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター：0570-008656 (ナビダイヤル)
：03-5321-8656

<近隣の店舗>

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14-1 日本生命川越ビル5階
電話 0570-017448 (ナビダイヤル)

【お詫びと訂正】

- ・9月号(362号)「子どもの詩」のお名前に間違いがございました。(小暮)ではなく、正しくは(古暮)です。
- ・同号「教育委員会だより」「令和6年度学校総合体育大会 結果」東中 新井真央さんの学年が(2年)ではなく、正しくは(3年)でした。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

今年度、四年生の学年テーマは、「Step Up!!」です。高学年に向けて一人一人の意識を高めたり、学年全員で助け合ったりして成長してほしいという期待を込めています。

ました。しかし、時には自分の思いを強く主張するあまり意見が衝突したり、思い通りいかないことやる気をなくしたりする姿もありました。自己中心的に物事をとらえることを優先してしまい、相手を尊

人が同時に立った場合は、誰が最初に発言するか、子どもたちに判断を委ねます。当初は、決まるまでの時間が長く、本時の目標や話合いの核心にまで辿り着けないのが実情でした。しかし、自分が発表で

きるのは周囲の寛大な心が根底にあること、そして、聴く側は発表者を支える姿勢や反応が大切であることを繰り返して指導しました。すると、徐々に自分たちで譲ったり、友だちに発言を促したり、自分の出番をじっと待ち、ここぞと言う時に満を持して起立したりする姿が増えてきたのです。一人一人の視野の広がりとともに、友だちを思いやることのできる温かな集団への成長を感じます。自信をも

また、五年生の社会科で自然災害の事例や防止を学び、六年生の理科では地形の学習で地震について触れていく。学校ではカリキュラムの中で地震の学びを深めている。本校では、緊急時に慌てず行動できる力を養おうと考え今年度は事前に知らせずに避難訓練を実施した。真剣に放送を聞き落ち着いて対処する児童の姿が各所で見られた。いつどこで地震が起こるか分からない。家庭で過ごしているとき、友だちと遊んでいるときなど学校外でもこれまでの学びを生かし、「自分の命を守る子」になっ

と願う。
(関口 循)



ステップアップ

南畑小学校 教諭 吉田 翔子



私は、四月から南畑小学校に赴任しました。初めて出会う子どもたちは、元気で明るく素直な印象でした。新しい学年に期待を膨らませ、頑張ろうとする気持ちに溢れてい

重なる気持ちが足りないという課題が少しずつ見えてきたのです。そこで、まず取り組んだのは、授業での発表の仕方です。意見がある場合は、その場で起立します。複数の

編 集 日 記
一月を迎えるにあたり、今年の元旦を少し振り返りたい午後四時十分ごろに起きた石川県能登地方を震源とする地震。多くの建物が倒壊し、火災に見舞われた地域もある。海岸沿いでは津波もあった。

日本は地震国である。気象

状況で起こる風水害と違い、

大地に起こる現象は想定しに

くい。それだけに日頃から自

然災害について関心と正しい

知識をもてるよう、物と心の

備えの大切さと発生時の行動

の仕方「避難訓練」を中心

に指導している。